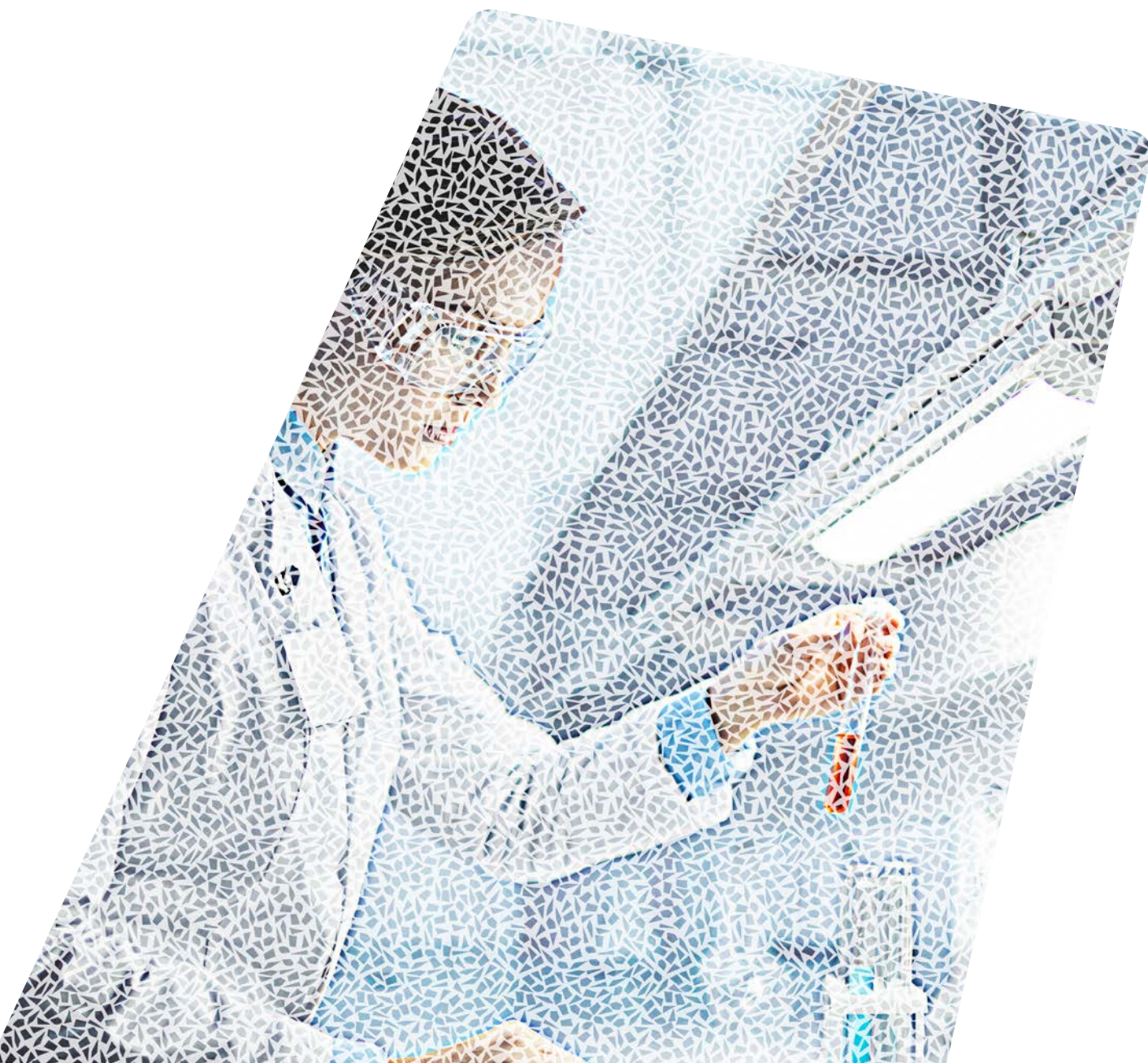




バイオ医薬品やワクチン開発への 柔軟なアプローチ

QPSのトランスレーショナルメディシンは、最先端のテクノロジーと医薬品研究開発の経験を結集し、適切な医薬品開発を効率的に進めます。



QPSでのバイオ医薬品の概要

低分子化合物、タンパク質バイオ医薬品、ワクチン、遺伝子治療薬、細胞治療薬など、創薬から臨床開発、薬事申請まで、QPSはあらゆる医薬品開発上のニーズに応える生体試料分析サービスを提供します。QPSは、米国、オランダ、台湾、インドに4つの高度な生体試料分析施設を保有しており、北アメリカおよびヨーロッパに治験施設を持つ企業や、アジアやインドでの治験を希望する企業に適切な開発方法を提供いたします。



薬物動態学 (PK)



免疫原性評価



薬力学 (PD)



ファーマコゲノミクス (PGx)

リガンド結合アッセイ (LBAS) によるバイオ医薬品の定量分析

QPSのLBA技術は最先端で、比色、蛍光、化学発光検出を用いたELISA、Gyrolab®、MSD®およびQuanterix®など幅広いLBA技術プラットフォームの最先端を走っています。我々の多くの技術経験を持って、様々な生体サンプルを用いて薬物動態学 (PK) および免疫原性 (抗薬物抗体 (ADA) と中和抗体 (NAb) 評価の両方) 評価を費用効率よく提供することができます。

UPLC-MS/MSを用いた生物製剤の定量分析

QPSは2000年以来、LC-MS/MSを用いたポリペプチドおよびタンパク質の分析を行っています。通常の方法では、生体マトリックスからのサンプル抽出から、クリーンアップおよび濃縮を経てUPLC-MS/MSでの濃度分析まで行います。また、特異的な方法も利用できます。この方法では特異抗体による結合から始まり、酵素分解による分離そして、LC-MS/MSを用いた測定へと進みます。この方法では、免疫親和性カラムやビーズを使用して、分析前に標的ペプチドやタンパク質を選択的に濃縮するため、LC-MS/MSによるシグナル総量が少なく、特異的なペプチドのシグナルが得られます。





細胞分析法

2002年以来、QPSは多くのスポンサーから50件以上の細胞を用いた試験を支援してまいりました。

実施可能なサービスの例：

- ▶ エンドトキシン刺激(サイトカイン産生)
- ▶ 単球に対する化合物毒性(サイトカイン誘導)
- ▶ 初代細胞を用いた取り込み試験(33P)
- ▶ 毒素中和反応(細胞増殖)
- ▶ 中和抗体反応(細胞生存率)
- ▶ カスタム機能性評価

免疫原性および中和抗体

実施可能なサービスの例：

- ▶ プレートのコーティングを行うための抗原・タンパク質結合体の調製
- ▶ ELISA法を用いた測定法の開発およびバリデーション
- ▶ 試験検体の陽性反応のスクリーニング
- ▶ スクリーニングで陽性反応を示した検体の確認試験
- ▶ 抗原性の相対的な程度を決定するための陽性確認済みの検体の滴定
- ▶ 各種抗体クラスの検出と判定
- ▶ 中和抗体反応

科学的リーダーシップと確かな成果



経験豊富な専門チームが、すべての生体試料分析試験が規制要件のもと期限内に行ないます。QPSは、高品質のデータを提供するとともに、当社の技術者への問い合わせが可能で、定期的なアップデート、お客様の要望に合わせた形式での定期報告をいたします。お問い合わせいただいた試験見積もりは公平かつ他社に負けない価格で迅速に提示いたします。

- ▶ バイオ医薬品
- ▶ バイオマーカー
- ▶ ゲノミクスと細胞・遺伝子治療
- ▶ トランスレーショナルメディスン
- ▶ 質量分析



QPSは世界各地に拠点を持つグローバルCROです



グローバルならではの利点がございます

低分子化合物、タンパク質バイオ医薬品、ワクチン、遺伝子治療薬、細胞治療薬など、創薬から臨床開発、薬事申請まで、QPSはあらゆる医薬品開発上のニーズに応える生体試料分析サービスを提供いたします。



CUSTOM-BUILT RESEARCH™

医薬品開発は時間が勝負です。

QPS開発事業部に今すぐご連絡を!

電話 +1 512 350 2827 メール infobd@qps.com